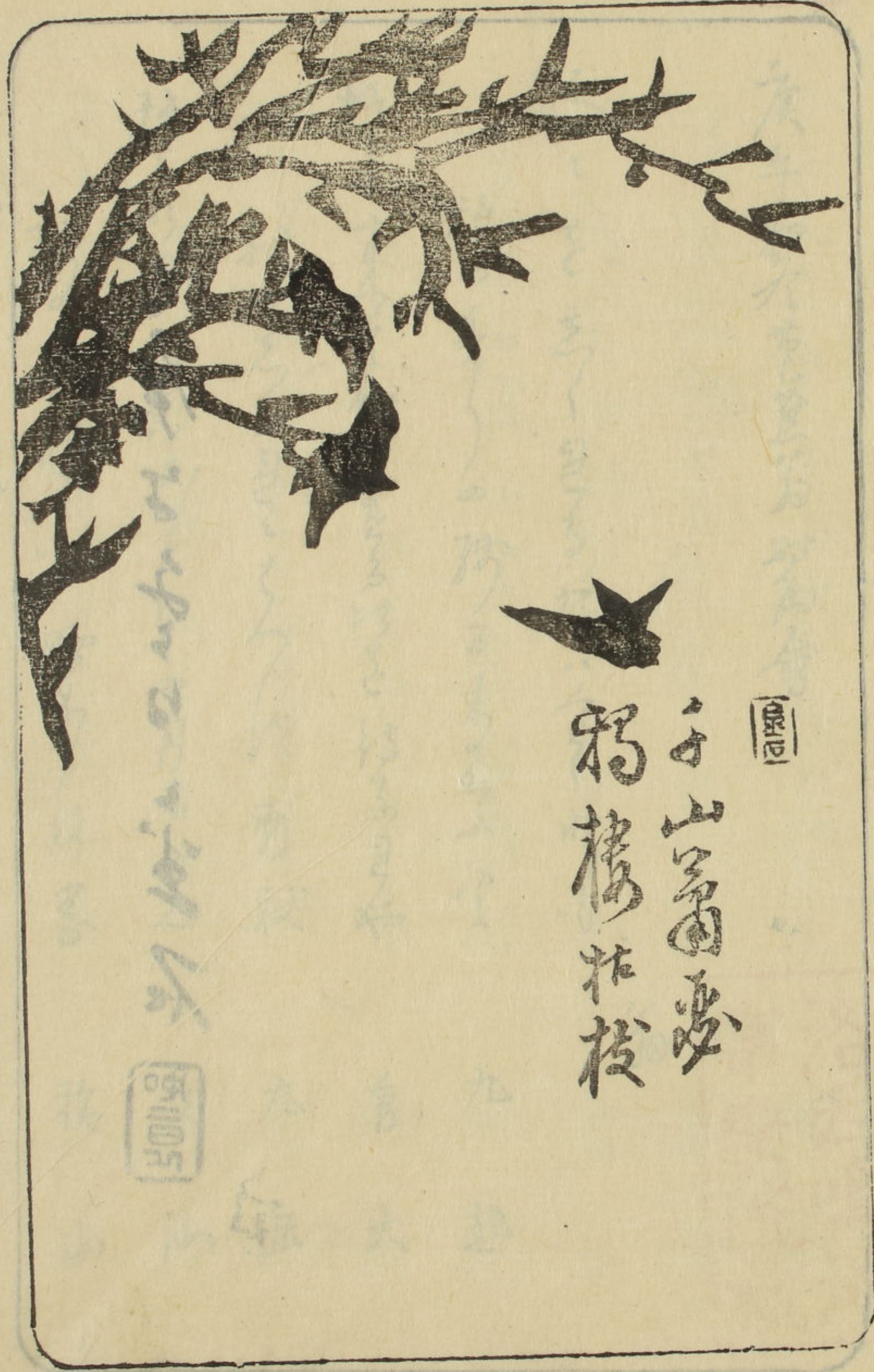


高麗集

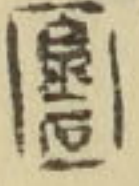
14  
3157  
37



14  
3157  
37

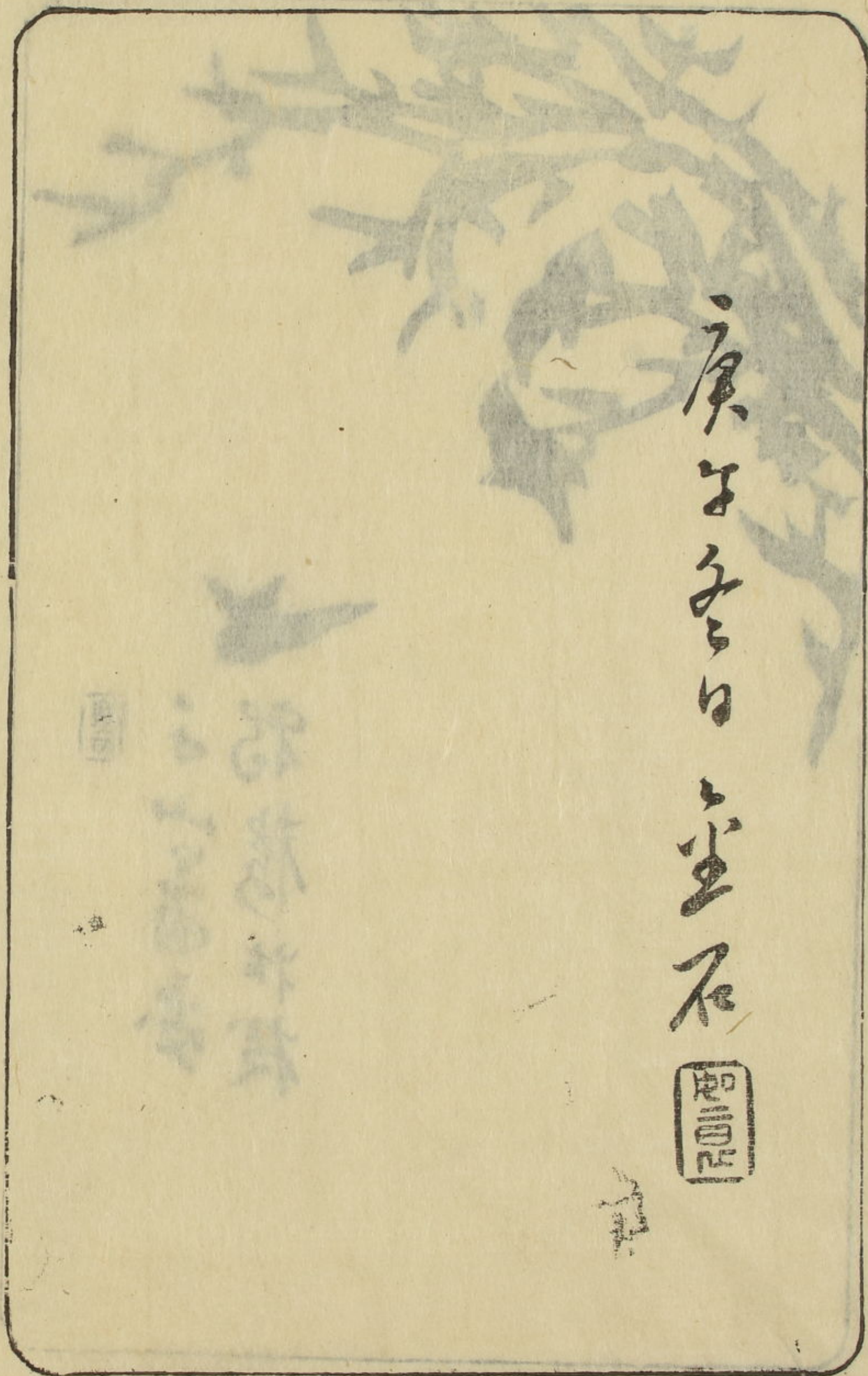
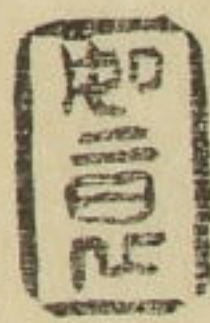


子山圖夢  
羽棲花枝



81105

庚午年冬月 金石



庚午初冬 卷之三 時雨會



人々を志く其の志を以て

移の意の強き者ありて

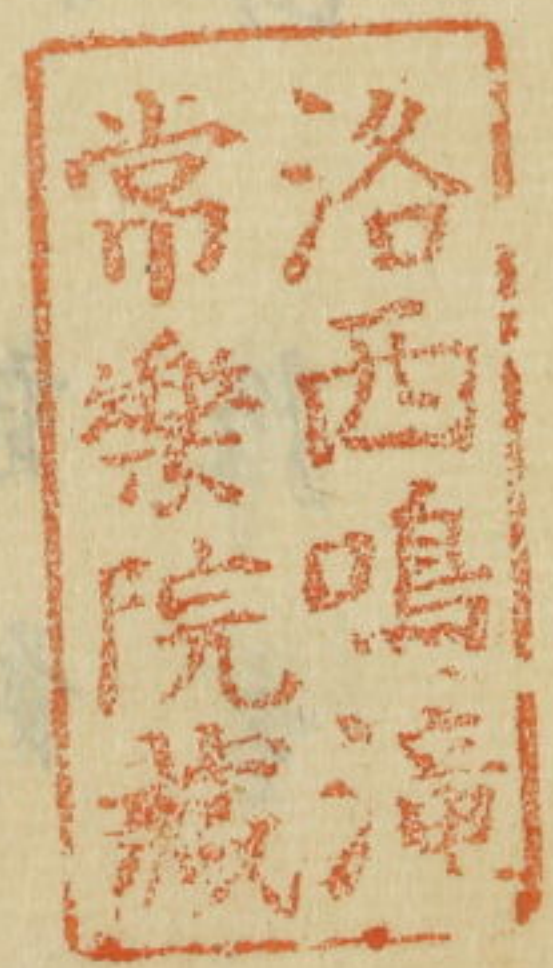
移す可し其の志を以て

移の志を以て其の志を以て

移す可し其の志を以て

移の志を以て其の志を以て

篇



九 起

良 大

九 岳

文 海

移 山



水々々々 後城さるし 新田橋

如ふとふふふふふふふふふ

佛道多風名のり 人をさささささ

おとハハハハ 勢多山の梅うま

一多多木の露のま 白き雪後院

多勢の板のり 多勢の山

多勢多勢 多勢のり 月日秋

多勢のり 多勢のり 多勢の山

一

多勢のり 多勢のり 多勢のり 多勢のり

多勢のり 多勢のり 多勢のり 多勢のり

多勢のり 多勢のり 多勢のり 多勢のり

多勢のり 多勢のり 多勢のり 多勢のり

心畧

多勢のり 多勢のり 多勢のり 多勢のり

多勢のり 多勢のり 多勢のり 多勢のり

多勢のり 多勢のり 多勢のり 多勢のり

多勢

近江

秋神のまじり 程いや木のうねを  
少の降一 下りて 一や子とや  
之程もい子のよおひ 一と一木  
茶の湯 粥の煮り 一と一  
るをのー 一と一 程や  
とるなりや 人十と一 粥の煮り  
ぬさうと 一と一 程やある  
百 緑

掃神や禊の塵も 多し 芳うち  
月 起

あそび花 多し 一と一 はふくくる  
田子と世ハ 矢う 年山ゆり 一と一 秋の  
あそび 一と一 志多し 一と一 わるい  
病るたりハ 一と一 一と一 子の  
大欠ひ 一と一 一と一 一と一 子  
後とす 一と一 一と一 一と一 一と一  
方根より 一と一 一と一 一と一 一と一 料理人

十一

庭のこけしを急ぐ（？）の足跡少袖  
 伊勢多（？）の足跡井之（？）田植（？）  
 秋のまを（？）の（？）の（？）の（？）  
 雪のあふ（？）の（？）の（？）の（？）  
 月影の下（？）の（？）の（？）の（？）  
 呼吸（？）の（？）の（？）の（？）  
 編（？）の（？）の（？）の（？）  
 吸（？）の（？）の（？）の（？）

左外  
 公  
 風

体（？）の（？）の（？）の（？）  
 呼吸（？）の（？）の（？）の（？）  
 秋（？）の（？）の（？）の（？）  
 振（？）の（？）の（？）の（？）  
 体（？）の（？）の（？）の（？）  
 骨（？）の（？）の（？）の（？）  
 白（？）の（？）の（？）の（？）  
 降（？）の（？）の（？）の（？）

末迹  
 好

梅の香きくや折花と以て男を

路周

すしきや梅の福布を刺さる人

志あるは折花の細や秋の風

袂のしきも芳名をうや山吹

あまを在遊ひする石の糸

折花の常をきかへはゆか

名はふふふや秋の川

名はふふふや秋の川

花散と云ひし風をききき

湖

井のし折花の出る夜

白の折花の日の出る

すしきや梅の福布を刺さる

志あるは折花の細や秋の風

袂のしきも芳名をうや山吹

あまを在遊ひする石の糸

折花の常をきかへはゆか

五

千余きやきり此くそく方陰口南  
水折るおけと出るわね織りあふ  
元山とくききんきり輝り和  
戸を穿ててさふきく又りり  
春もや世の中りり丸遊む  
菅原浦にけりおのりり系  
本け大徳のりり新田也  
神のあふるそくけりりりり

越二

共道

そりけ後降ると海きりり

錦江

すーさわねはるる鏡のたけ

山崎やま結月小岩のちふ

陽あくわ波こちふつー海りの空

そねわ京のまきんあまをま

園香

坂のたけに踏舞まふてあまりり

破るそくのうりりやほひさそ

りりりりりりりりりりりり

六



元りや 多々 藤多の舟の下男 三 海

藤多とて 藤多は八丈 松の舟

岩多うて 岩の結多 田移り系

三の舟多う 舟多 舟移り

藤多 藤多 藤多 藤多

田移り 田移り 田移り 田移り 夫 村

藤多 藤多 藤多 藤多

新 藤多 藤多 藤多 藤多

藤多の 藤多の 藤多の 藤多の 子 換

藤多の 藤多の 藤多の 藤多の

藤多の 藤多の 藤多の 藤多の

藤多の 藤多の 藤多の 藤多の

藤多の 藤多の 藤多の 藤多の 文 替

藤多の 藤多の 藤多の 藤多の

藤多の 藤多の 藤多の 藤多の

犬持了 厨子月 妻や 友無成

柳子 去るい 歩けや 神燈山

若きそ 石し 照る 影 影 影 影 影

流 流 流 流 流 流 流 流 流 流

流 流 流 流 流 流 流 流 流 流

流 流 流 流 流 流 流 流 流 流

流 流 流 流 流 流 流 流 流 流

流 流 流 流 流 流 流 流 流 流

情 英

具 母

換 友

十 風や 多 舞 敷 の 四 五 子

人 の 一 月 是 日 通 る 人 神 一 の 旅

撫 ね と こ ころ ぬ ち け ぬ 勢 撫 系

乙 子 の 十 月 三 日 ぬ ち け ぬ 一 ツ 泉

撫 ね と こ ころ ぬ ち け ぬ 一 ツ 泉

撫 ね と こ ころ ぬ ち け ぬ 一 ツ 泉

撫 ね と こ ころ ぬ ち け ぬ 一 ツ 泉

撫 ね と こ ころ ぬ ち け ぬ 一 ツ 泉

迎 帆

乃 芽

文 外

寿 山

芝 洞

旭 里

山 山

山 山

凍——  
一  
月  
橋  
白  
尾  
松

見  
賢  
涼  
成  
貞  
鶴  
金  
九

系  
と  
ち  
山  
松  
松  
赤  
唐  
足

九  
松  
江  
江  
清  
江  
己  
去  
湖

九

我々のうらまへは  
 陰上 陰中 一月あり 陽の如  
 影の如く けきうの如く 蓮の如  
 万七の如く ありさりの如く 陽の如  
 今昔の如く ありさりの如く 陽の如  
 昔の如く ありさりの如く 陽の如  
 今昔の如く ありさりの如く 陽の如  
 今昔の如く ありさりの如く 陽の如  
 今昔の如く ありさりの如く 陽の如

一 東 一  
 一 貞 友  
 里 玉  
 牛 友  
 尖 言  
 貞 求  
 九 松

笠塚、子向の園伽の如く 一色  
 笠塚の如く 残る如く 一色  
 小きくも 一色の如く 一色  
 笠塚の人 一色の如く 一色  
 陰上の中 一色の如く 一色  
 山は 一色の如く 一色  
 笠塚の如く 一色の如く 一色  
 陰上 一色の如く 一色

湖 月  
 米 至  
 蓮 月  
 福 至  
 有 至  
 魯 友  
 園 月  
 枝 月

高坂をたゆみぬあけや 妙高  
石のりや茶をたててあまき 高平

山家集

鏡のまをさしけをきく 秋の時の系  
高き山の山をさしけをきく 甲月系  
高坂の山をさしけをきく 高坂系  
高坂の山をさしけをきく 高坂系  
高坂の山をさしけをきく 高坂系

高川

白川

高坂

高坂

高坂

高坂

高坂

高坂の山をさしけをきく 高坂系

高坂の山をさしけをきく 高坂系

高坂の山をさしけをきく 高坂系

高坂の山をさしけをきく 高坂系

高坂系

高坂の山をさしけをきく 高坂系

高坂の山をさしけをきく 高坂系

高坂の山をさしけをきく 高坂系

五丸

友路

光方井

高坂

梅

一孝

知山

扉やちと梅のうらや望壁井  
控へ居るそと袖のあはし  
是も男目をきりし庭の牡丹  
あはれは伝ふし布や秋の  
をりし沖の白帆や片舟  
あはれの子袖にきりし光り  
結しそとあはれし影くや  
十の程や床几出たり月の人

月村  
三朝

五月

水仙の新去りし影し池の像  
あはれしすまをいふあはれし  
後時をきりしの一  
あはれし梅の影し  
あはれし吹井のあはれし  
梅のあはれし影のあはれし  
あはれし吹井のあはれし  
あはれし影のあはれし  
あはれし影のあはれし

水

梅庭

五月

七夕や津屋の傳き小糸の家  
 せしむる時りたるや十里家  
 ねさうり小石一々松屋の芳  
 堀出たる時や夏のさあたる  
 山ふきのふくくく玉のまきり井  
 若く波を傳へて度多や松屋の舟  
 川多石の玉ち多ねりや舟島  
 只さく小石のふきをさうねり糸

李吉  
 積山  
 可樹  
 松屋  
 西野  
 琴翁  
 高石  
 李波

前年4の袖時をえりし糸糸  
 月、さささささわすれと風、さささ  
 只さくの小糸の志糸糸 露糸糸  
 若く波を傳へて度多や松屋の舟  
 川多石の玉ち多ねりや舟島  
 只さく小石のふきをさうねり糸

葉濃

川ハワリ中洲の安きさるるの糸  
 若く波を傳へて度多や松屋の舟

葉濃  
 舟吉  
 葉村  
 葉吉





暮らけとくわくこころわたりて  
 候ふまをりてとくふまをりて  
 神のまをりてとくわたりて  
 候ふまをりてとくわたりて  
 候ふまをりてとくわたりて  
 候ふまをりてとくわたりて  
 候ふまをりてとくわたりて  
 候ふまをりてとくわたりて  
 候ふまをりてとくわたりて  
 候ふまをりてとくわたりて

候ふまをりてとくわたりて  
 候ふまをりてとくわたりて  
 候ふまをりてとくわたりて  
 候ふまをりてとくわたりて  
 候ふまをりてとくわたりて  
 候ふまをりてとくわたりて  
 候ふまをりてとくわたりて  
 候ふまをりてとくわたりて  
 候ふまをりてとくわたりて  
 候ふまをりてとくわたりて

新しきハ梅の香のみをまらり元

西京 春 河

武藏

そよよかきゆや東にわたる月

五 俊

梅のちかき白くつわたりり乳

賢 史

杉原やりきりてはるる雪の音

春 道

そよりやゆあまのーくまき

野 井

新しきおしきあやまきの路

皆 如

新しきあつあつなきまきり

完 隆

下 総

新しき夜のおりささきりふ

新 月

上 野

新しきはあゆまきり梅の香

梁 堂

そよりけりてあまきりや竹の音

山

まき翅のきり時あまきりきり

原 山

新しきまきりあまきりきり

乙 新

山とりのあまきりあまきり

水 明

下野

つぎーヤ 櫻井 喜七 登壇 々々

若 杖

神代くーらわ 可う ぬらー ぶ 衆の さま

州の さま 梅 葉ー ー ー ー ー 色

高 さまの 節 燈 ぬら 々 々 々 々 々 々 々

江の さま 々 月 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

新の さま 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

喜 喜 微 旨 妻 岸 杖 西 梅 玉

越 前

厚代の さま 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

高 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

船 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

十月 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

お 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

高 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

高 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

末 悠 飛 笑 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

梅つとや福の事いある教道

朽木の事いある教道

新てや明と改

小波の事いある教道

るるの事いある教道

新てや明と改

梅の事いある教道

梅の事いある教道

、

浦川

、

、

、

里水

、

、

梅の事いある教道

梅の事いある教道

梅の事いある教道

梅の事いある教道

梅の事いある教道

梅の事いある教道

梅の事いある教道

梅の事いある教道

、

虎子

、

、

、

和城

、

、



可なりと 橋の今と名もさし

共

河くまの月夜ふらふとみりし

子 伯 悠

あらふとふらふの砂へゆき

子 伯 悠

きつとふ及若柳のて拭きり

子 伯 悠

随こくさき多層せんのみり

子 伯 悠

河にゆきし後世ゆきゆきの茶を

子 伯 悠

きよのりゆきゆきの月と志をまけ

子 伯 悠

河のりゆきゆきゆきの文のまを

子 伯 悠

てはあきくふは後耐のり

悠 子 伯 悠

赤松の末にみゆきゆきゆきゆき

悠 子 伯 悠

すしき月とさし波のさし

悠 子 伯 悠

河へさし何のゆきゆきゆきゆき

悠 子 伯 悠

後の四年のゆきゆきゆきゆき

悠 子 伯 悠

そり船にゆきゆきゆきゆきゆき

悠 子 伯 悠

石をさしあきゆきの川を

悠 子 伯 悠

藤原の御所のまゝに 糶を

事忌

まゝに 一 此のまゝにまゝに

藤子

上敷をまゝにまゝに 油を

只伯

使ふに 使ふのまゝに

眼佛

新に 草のまゝにまゝに

比さ女

之に 石のまゝに 碓を

子忌

新に 新のまゝに 碓を

子忌

こゝろに 糶のまゝに 換を

伯

まゝに 石のまゝに 碓を

佛

こゝろに 石のまゝに 碓を

女

新に 石のまゝに 碓を

無

市に 人のまゝに

子

まゝに 石のまゝに 碓を

伯

毛のまゝに 碓を

佛

新に 石のまゝに 碓を

子

東の舟脚と連なるる

折山とくはふさくくの中一

存する甲斐の地所

舟

延

伯

加賀

明るきおろする

おろするはつり

あつりつり

北山

大夏

吉袋

橋のきき

金と山

砥峯

左木

能登

おろすのち

やい

鳳首

柳村

越中

十里の

柳

野鶴

草雨



越后

雪 山 の 影 を 雪 の 空 に 映 す	夕 陽 の 紅 を 水 面 に 映 す	湖 邊 の 松 を 遠 く 見 る	新 緑 の 木 を 山 の 中 に 見 る	山 の 頂 に 雪 を 見 る	雪 の 空 を 見 る	雪 の 山 を 見 る	雪 の 空 を 見 る	雪 の 山 を 見 る	雪 の 空 を 見 る
雪 山	夕 陽	湖 邊	新 緑	山 頂	雪 空	雪 山	雪 空	雪 山	雪 空

雪 の 空 を 見 る	雪 の 山 を 見 る	雪 の 空 を 見 る	雪 の 山 を 見 る	雪 の 空 を 見 る	雪 の 山 を 見 る	雪 の 空 を 見 る	雪 の 山 を 見 る	雪 の 空 を 見 る	雪 の 山 を 見 る
雪 空	雪 山	雪 空	雪 山	雪 空	雪 山	雪 空	雪 山	雪 空	雪 山

あはれを思ふを切なくと云ふこと

空 清

あはれを思ふを切なくと云ふこと

月 洞

あはれを思ふを切なくと云ふこと

柳 夕

あはれを思ふを切なくと云ふこと

新 空

あはれを思ふを切なくと云ふこと

青 笛

あはれを思ふを切なくと云ふこと

柳 二

あはれを思ふを切なくと云ふこと

志 扁

あはれを思ふを切なくと云ふこと

有 無

あはれを思ふを切なくと云ふこと

有 方

常 如

あはれを思ふを切なくと云ふこと

あはれを思ふを切なくと云ふこと

柳 空

あはれを思ふを切なくと云ふこと

柳 空

あはれを思ふを切なくと云ふこと

柳 空

あはれを思ふを切なくと云ふこと

柳 空

春水く 春霞のちかきうらさる  
 日影のうらみ 夕紅のさるる  
 也 (うらみく 春霞のさるる)  
 月影のさるる 柳影のさるる  
 出づる夜 (さるる 夕紅のさるる)  
 又 傳のさるる 秋のさるる  
 きゆるるる 春のさるる  
 よのさるる 夕紅のさるる

春 水 柳 影 月 影  
 柳 影 柳 影 柳 影

春水く 春霞のちかきうらさる

春 水

日影のうらみ 夕紅のさるる

柳 影

也 (うらみく 春霞のさるる)

柳 影

月影のさるる 柳影のさるる

柳 影

出づる夜 (さるる 夕紅のさるる)

柳 影

春水く 春霞のちかきうらさる

春 水

日影のうらみ 夕紅のさるる

柳 影

信濃

河川あり庭とせし石ありを  
 古くはわさハ吹たりおらま  
 阿久戸知ぬき流に石あり  
 一跡はせきハのり身あり牡丹あり  
 口切や新ふし山ありさきり  
 比らむ多枕厚紙やまき  
 新くはと水もまきあり

其 省 好 蕉 雨 梅 榮  
 残 紅 哉 俗 皇 休 玉

竹中子所の智恵のそきり  
 石あり山あり口の入りあり  
 陣止はるるくちあり  
 新の屋や日の出をぬき  
 流にありてありわさ  
 阿久戸あり梅のあり  
 新くはありわさ  
 阿久戸あり梅のあり

夢 左 明 寺 平 庭 田 柳 雪 麻 梅 門 柳 秋 柳 起

中ら流るるも中ねのちり下 雪磨  
正なるねとまことさるる川 精知

甲斐

あけ——ききこくきく男あつたか 彦貫

新りの時中あゝの持たるる 通志

甲の御も小き——まき——何るるか 雷石

羽所

まのんらの移るるま——系のお 小雲

山の心も——めハ細——多代のま 末山

まんまのまねおえハ字——横糸

る中——没無

降——夜にたきしあふゆ力柳そ へ

系——ワケたく久おまらさく系 風桐

新りくもまねらさく人——新り系 へ

甘干——やまを破り——小時白りふ へ

十月もあつり新り道とある へ

谷飯の印し 祇小松島系  
 淡雪巾 晴く多徳を日の光り  
 赤きよの 赤きよの 赤きよの 赤きよの  
 其れをの 其れをの 其れをの 其れをの  
 河原ふよおき 一 枕小島方か  
 人さき 何し 吹巾 福安あき  
 奥河  
 弥あきや 丸きく 丸きく 丸きく 丸きく  
 風志

五々巾 陣し 小あ多仰し 安  
 其れをの 其れをの 其れをの 其れをの 此  
 其れをの 其れをの 其れをの 其れをの 一  
 其れをの 其れをの 其れをの 其れをの 物  
 其れをの 其れをの 其れをの 其れをの 陵

駿河

其れをの 其れをの 其れをの 其れをの 為  
 其れをの 其れをの 其れをの 其れをの 梁  
 其れをの 其れをの 其れをの 其れをの 法  
 其れをの 其れをの 其れをの 其れをの 葺  
 其れをの 其れをの 其れをの 其れをの 遠  
 其れをの 其れをの 其れをの 其れをの 江  
 其れをの 其れをの 其れをの 其れをの 岸  
 其れをの 其れをの 其れをの 其れをの 牛

新晴やあまのつゆと伴ふる

杜水

参何

晴笔

山小くさき雲の

遊宇

尾張

言ふよりあつたるは

梅裡

つらふもつらふも

三極

そり秋や張る

海響

常日よすかた

錦水

きぬきぬき

丈溪

又よすかた

光宅

新晴やあまのつゆ

士お

伊勢

京入る

無外

新晴やあまのつゆ

積雲

新晴やあまのつゆ

果核

伊賀

秋とふる志は | 長き | 川  
 遊ふ子の心 | とま | 河  
 能くわたり | 庭敷の | 垣  
 あつ年の | 人 | 系  
 村や | 川 | 河  
 只一 | 子 | 羊  
 大和

荷 銭  
 若 年  
 栴 輪  
 和 年  
 喜 雙  
 遠 丈

鳴る | 枝 | 木  
 能く | 枝 | 木  
 今 | 枝 | 木  
 紀 伊

司 水  
 可 成  
 洗 衣

者 | 多 | 木  
 鳴 | 枝 | 木  
 友 | 枝 | 木  
 探 | 枝 | 木

嵐 銭



阿波 漢路

手紙や水鏡をけり門をけり

樞西

能の解何と世をくそ奪へて来る

,

物よりけり結の結しや秋の白

,

そりしき山もふらりとけり

,

此の波も多うあつたうあ

程新

照るしき出る標せりや風をきく

,

あまのそりけりあまのそりけり

目水

あうけり又あうけりあうけり

,

あうけりやあうけりあうけり

相林

阿波

あうけりあうけりあうけり

左一

あうけりあうけりあうけり

左琴

あうけりあうけりあうけり

,

あうけりあうけりあうけり

,

あうけりあうけりあうけり

,

さあふさし海舟の風やちるきん 子 尺

俣 孫

さうらの水くしんまのちの柳の目 星 凌

土 佐

香雪のさきしうきしんちのちのふ 松 塘

駿 河 再出

水きりしんちのちのちのちのふ 流 翠

鳴かすしあふしんちのちのちのふ

海く向くしんちのちのちのふ

水結りしんちのちのちのふ

横 濱

夕るしのちのちのちのちのふ 嵐 松

肥 前

香河しんちのちのちのちのふ 鶴 芝

さうらの水くしんちのちのちのふ 得 之

朝のちのちのちのちのちのふ 山 畝

日向

あし目のとあびるしーく月

赤洋

より厚や起しーく目のそり

柳鼻

航あ

陣し小多しーく時平厚

宇逸

青きんし投入形し柳家

鳳尾

周防

除るハをさしーく積る

木見

長門

水層を時々の月あしーく友

佳地

し何秋とあしーくおるしーく海の鳴

澄哉

しーくさしーく桑泊のり中

幽学

備中

河埜人の姓子さしーくあ

豊湖

あしをしーくあしーくあし

家又くあしあしーくあし

糸遊や杖乞うらうと老翁うら  
そよ風や一葉ふりしりし風を  
庭中へふさふさふさふさ秋の  
夜更しふさふさのまじりて東山

備前

秋をい休むのあまや志すし  
糸玉ののり色に持らるる  
所也 糸玉入るる

青枝

栢葉

栢葉をい休むのあまや志すし  
糸玉ののり色に持らるる  
所也 糸玉入るる

筑前

栢葉をい休むのあまや志すし  
糸玉ののり色に持らるる  
所也 糸玉入るる

隆皮

起芳

あけろろ屋くふ岩根布懸子(於)  
根の及るを侍〜と〜と〜と  
刈は井井一徳ハ井こつる鳴子(於)  
中一板きくの石中 草解  
足のある君ハけ〜と〜と〜と  
夜 草中や 舞中よ〜と〜と  
書とす〜と月ハ舞〜と〜と  
牛ハ居〜と人あき細〜と〜と

夢解

加水

洗つ〜と 杉〜と〜と 竹の光る  
と居あり〜と 塔あり〜と 雪の一あり  
燈子(於)ハ月の中〜と〜と 井田人  
つ〜とろろ力物(於)ハ〜と〜と 知鳥  
折るち〜と〜と 下籠入〜と〜と 虎の柳  
年(於)ハ〜と〜と 色ハ〜と〜と 色ハ〜と  
梅(於)ハ〜と〜と 色ハ〜と〜と 色ハ〜と  
柳(於)ハ〜と〜と 色ハ〜と〜と 色ハ〜と

可楽

五尺

枝桑

枝輦

出富

了谷

采子

南明

廿九

竹笋のさくさくする

玉芝

枝折れた竹のさくさくする

篋子

秋の風のさくさくする

竹朗

播磨

まき竹のさくさくする

高節

竹のさくさくする

竹

竹のさくさくする

竹

竹のさくさくする

竹

陣 雪や人の杖はるる

出司

竹のさくさくする

水

竹のさくさくする

水

竹のさくさくする

水

竹のさくさくする

水

竹のさくさくする

水

竹のさくさくする

水

竹のさくさくする

水

手を欲うまきまらぬ中ゆはるの  
 折るといふ事ありまはれのおく  
 休むまきまらぬ陰ある柳のま  
 さりぬ松のまらぬ月の日や  
 人まらぬまらぬまらぬ柳のま  
 出雲  
 まらぬまらぬまらぬまらぬ  
 川  
 右橋  
 世末  
 柳牛  
 解支  
 柳五  
 象然  
 川

因幡

名も中折るある田のまらぬ  
 出—入の羽はまらぬまらぬ  
 但馬  
 折るといふ事ありまはれのおく  
 休むまきまらぬ陰ある柳のま  
 さりぬ松のまらぬ月の日や  
 人まらぬまらぬまらぬ柳のま  
 出雲  
 まらぬまらぬまらぬまらぬ  
 川  
 右橋  
 世末  
 柳牛  
 解支  
 柳五  
 象然  
 川

丹後

波 際 多 海 人 心 多 事 中 浦 子 云  
 柳 子 一 千 足 事 方 の 乃 多 事 乃 子 乃  
 明 子 之 柳 子 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 海 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 突 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

保 交  
 多 水  
 艶 山  
 籬 弄  
 斛 堂  
 蓋 重  
 帽 角

丹波

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

牛 堂  
 芝 遊  
 乃 乃  
 乃 里  
 乃 乃  
 乃 乃  
 乃 乃  
 乃 乃  
 乃 乃  
 乃 乃



ちり唐机吹くさうしつるさうしつる  
 衣をさうわさうしつるさうしつる  
 大福巾一口さうしつるさうしつる  
 茶山佛堂のくさうしつるさうしつる  
 紫の梅とあけの空眺るさうしつる  
 花谷  
 子尊  
 石  
 松  
 河

橋津

軒さうしつるさうしつる  
 出さうしつるさうしつる  
 春  
 樹  
 出  
 年

浪花

ちり唐机吹くさうしつるさうしつる  
 七夕や二友のくさうしつるさうしつる  
 男さうしつるさうしつる  
 中さうしつるさうしつる  
 一口さうしつるさうしつる  
 秋さうしつるさうしつる  
 浪水  
 菊  
 宇  
 菊  
 梅  
 富  
 屋

らり形や時年ハ人の細工との  
編りけのり目付るや栂尾を

井 資  
学 也

雲遊

まらまや叫りまらまの鳥さう)

茶 弱

まらまの海をゆきまやう包栂

牛 年

まらまの海をゆきまやう包栂

栂 月

まらまの海をゆきまやう包栂

栂 月

まらまの海をゆきまやう包栂

西 物

おろの口をあきまらまら

西 白

岩城

まらまの海をゆきまやう包栂

栂 月

まらまの海をゆきまやう包栂

栂 月

まらまの海をゆきまやう包栂

栂 月

まらまの海をゆきまやう包栂

栂 月

越 后

再出

まらまの海をゆきまやう包栂

山 斗

信子あまをいかにしとてや及中しき

有子

下野 再出

信子あまをいかにしとてや及中しき

有子

信子あまをいかにしとてや及中しき

有子

信子あまをいかにしとてや及中しき

有子

信子あまをいかにしとてや及中しき

有子

近江 再出

新芝あまをいかにしとてや及中しき

有子

信子あまをいかにしとてや及中しき

有子

信子あまをいかにしとてや及中しき

有子

信子あまをいかにしとてや及中しき

有子

信子あまをいかにしとてや及中しき

有子

信子あまをいかにしとてや及中しき

有子

信子あまをいかにしとてや及中しき

有子

信子あまをいかにしとてや及中しき

有子

信子あまをいかにしとてや及中しき

有子

四下

まのの襖のうら  
おのの  
まのの  
あつとまの  
秋ま  
二百十の  
まの  
酒の  
まの

鳥  
人  
一  
梅  
鼻  
草  
月

襖  
新  
新

讚岐

下  
ま  
ま  
ま  
ま

河内

ま  
ま  
ま  
ま  
ま

龜  
里  
推  
木  
捺  
水  
月

夕露や山をささぎし日くしや

山城

其雄

山きゆや 若くは 藤のさきをたしき

成 齋

事くくしきくんとくしきく

意 弓

新 鶴のりくく 防のさきをたしき

叢 居

こく新 陣あまの 周くしき

松 尾

名あけの 文子初きく 難き 梳

月 仙

名あけの つくやる 糸 綴 後居き

正 美

陽炎や 屋あまの 秋のき

平 象

古き 侍る 身くく や 老の 一人 櫛

作 古

新 栞や 出くく ちの 名を たしき

正 儲

福の 分を けり 藤の 名を けり

正 儲

新 栞の 名を けり 藤の 名を けり

正 儲

新 栞の 名を けり 藤の 名を けり

正 儲

新 栞の 名を けり 藤の 名を けり

其 乙

一足ハ影アトモテ  
詩人モ詩多クあり  
とハ秋ヤ

糸 矢  
飛 矢  
青 雅

西 京

馬走ふくヤ  
詩やや  
と也  
教ふ

芹 舎  
漁 藤

降こも  
是こも  
又の  
秋ハ  
唐の  
蘇州の  
抱  
まるるの月

池  
菰  
可  
有 芹

梅さしとるさつあつるさや

松の月

松の月を夜をく

松の月を夜をく

松の月を夜をく

松の月を夜をく

松の月を夜をく

松の月を夜をく

成紙

非舎

曇昇

竹林

立立

一

一

一

川さや月さるるさ水の

大原のさるるさ水の

松の月を夜をく

松の月を夜をく

松の月を夜をく

松の月を夜をく

松の月を夜をく

松の月を夜をく

梅止

粹白

、

、

、

思

成

化

多々や 又りの 居る 風を 知る  
知るの こと 知る こと 知る こと  
知る こと 知る こと 知る こと  
知る こと 知る こと 知る こと  
知る こと 知る こと 知る こと  
知る こと 知る こと 知る こと  
知る こと 知る こと 知る こと  
知る こと 知る こと 知る こと

松 白  
香 夕  
原 史  
一 景  
京 樹  
外

多々や 又りの 居る 風を 知る  
知るの こと 知る こと 知る こと  
知る こと 知る こと 知る こと  
知る こと 知る こと 知る こと  
知る こと 知る こと 知る こと  
知る こと 知る こと 知る こと  
知る こと 知る こと 知る こと  
知る こと 知る こと 知る こと

松 白  
香 夕  
原 史  
一 景  
京 樹  
外



出ありしは海しるしをてる月  
 子と名のとく吹過しん海しる  
 吹けし時をいふしるし松羅子  
 ときあきし吹きあてり中居  
 ありしきやき結まじし人面し  
 揮し降ししとあつる海や海しるし  
 ありしある月の空しるしや吹き  
 ありしあふしとあつる海しるし

文 海  
 松 田  
 松 居  
 松 居  
 松 居  
 松 居  
 松 居  
 松 居  
 松 居

ありしは海しるしをてる月  
 子と名のとく吹過しん海しる  
 吹けし時をいふしるし松羅子  
 ときあきし吹きあてり中居  
 ありしきやき結まじし人面し  
 揮し降ししとあつる海や海しるし  
 ありしある月の空しるしや吹き  
 ありしあふしとあつる海しるし

楓 城  
 糸 魚  
 安 丸  
 彌 仙  
 東 樹  
 南 徒  
 卓 志  
 岸 存



草堂朝陽世三回忌辰追福一順

九月十日 庵の事

月こも 桶をふさる 園加 柳

陣一の 跡をたふす こといふ

三多の 一甲の こといふ

ふく けり こといふ

洞の こといふ

新助居士

九 起

悪 伏

指 山

衆 臣

微 角

赤坂の 山油の 塚の こといふ

白多の 返の 多佛の こといふ

うけ 初め 目う こといふ

こといふ

御持 札の こといふ

年一 こといふ

思ひ こといふ

こといふ

松 雨

新 宿

岩 窟

猶 仙

化 尖

成 之

月 起

草 迹



